

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回7月の「てがたん」は7月13日(土)で「斜面林～水辺の生き物比べ」がテーマです。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは7月6日(土)です。よろしくお願いたします。

6月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→鳥博駐車場前水田→けやき広場→市民農園前水田
- 観察日時/天気 2013年6月8日(土) 10:00～12:00 / 晴れ
- 参加人数 23人(一般15人、子ども8人)
- 市民スタッフ 13人(石原直子、伊東茂子、岡廣志、木村稔、窪田憲史、小泉伸夫、須貝基康、染谷迪夫、竹本周平、弘實さと子、古川克彌、松村定雄、保田行弘)
- 鳥博職員 3人(小田谷嘉弥、塩田いづみ、村松和行)

観察記録 — 6月てがたんで観察した生き物リスト—

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、チュウサギ/クイナ科：オオバン/チドリ科：コチドリ/カワセミ科：カワセミ/コゲラ科：コゲラ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ヨシキリ科：オオヨシキリ/セッカ科：セッカ/ムクドリ科：ムクドリ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ/外来種や家禽：コバクチョウ、ドバト

【魚類】 ドジョウ

【貝類】 サカマキガイ、マルタニシ

【両生類】

トウキョウダルマガエル、ニホンアマガエル、アズマヒキガエル(おたまじゃくし)、ウシガエル(成体、おたまじゃくし)

【昆虫・クモ】

甲虫の仲間：ヒメゲンゴロウ、ヤナギルリハムシ、ヒメアカホシテントウ、ウリハムシモドキ、ナガヒョウタンゴミムシ/チョウ・ガの仲間：モンシロチョウ、モンキチョウ、ベニシジミ、ルリシジミ、アゲハ/カメムシの仲間：ヨコヅナサシガメ、ナガメ(幼)、ホソヘリカメムシ/バッタの仲間：クビキリギス、ヒメギス(幼)、ウスイロササキリ(幼)、ショウリョウバッタ(幼)、コバネイナゴ(幼)、エンマコオロギ(幼)、マダラスズ、キンヒバリ(声)、ケラ/トンボの仲間：シオカラトンボ、コシアキトンボ、トンボ科のヤゴ

【花】

キク科：ハキダメギク、ノボロギク、オオジシバリ、ハハコグサ、チチコグサモドキ、ヒメジョオン/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ、トキワハゼ/マメ科：シロツメクサ、ムラサキツメクサ/アブラナ科：イヌガラシ、キレハイヌガラシ/ヒルガオ科：ヒルガオ/キンポウゲ科：ケキツネノボタン、キツネノボタン/アヤメ科：ニワゼキショウ/ナデシコ科：ノミノツツリ/カタバミ科：カタバミ/ムラサキ科：ハナイバナ、キュウリグサ/ツユクサ科：ツユクサ、ムラサキツユクサ/ドクダミ科：ドクダミ/アカバナ科：メマツヨイグサ/キキョウ科：ミゾカクシ、キキョウソウ/フウロソウ科/アメリカフウロ/イネ科：ヒエガエリ/ベンケイソウ科：コモチマンネングサ/ブナ科：マテバシイ/アジサイ科：アジサイ(植栽)

【コケ類】 イチョウウキゴケ

【藻類】 シャジクモ

6月の観察アルバム



今回のがたんのテーマは「田んぼの生き物」でした。オタマジャクシや貝類を中心に田んぼの生き物について話した後、田んぼの生き物探しをしました。鳥類では、子連れのムクドリやホオジロの姿が見られました。



今月の案内人 石原直子さん



岡廣志さん



1 田んぼでみつけたニホンアマガエル



2 田んぼや湖沼で見られる藻類のシャジクモ



3 田んぼの畦にいたナガメの幼虫（頭を上にして見ると、人の顔のようにみえます）



4 これから夏にかけて脱皮を繰り返して大きくなるヒメギスの幼虫



5 田んぼに落ちていたナガヒョウタンゴミムシ



12 イチョウウキゴケ

田んぼでみられる 15mm ほどのコケ植物で、半円形以上に成長すると二つに分かれます。近年、減少傾向にある植物です。



5月てがたんの観察生物とルート

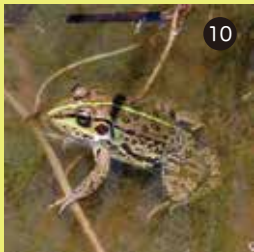


6 ヒメゲンゴロウ

体長約 12mm の小さなゲンゴロウで、田んぼだけでなく、公園の池や用水路でもよくみられます。



11 田んぼで見つけたドジョウ



10 田んぼでみつけたトウキョウウダマガエル



9 カズノコグサは花が成熟すると黄色くカズノコのように見えることが名の由来



8 田んぼの周りの湿った場所に生えるミゾカクシ



7 学校で細胞の観察に利用されるムラサキツクサ

今月の鳥 オオヨシキリ

(スズメ目ヨシキリ科)

オオヨシキリは全国に渡来する夏鳥です。渡来したオスはヨシ原の中になわばりをつくり、大きな声でさえずって、メスに自分をアピールしたり、なわばりを守ります。

オオヨシキリは一夫多妻で繁殖しますが、環境が悪いと一夫一妻で繁殖することもあります。一つの巣に卵は4~6個で、ヨシの茎に細い枯れ草の葉や茎を使ってカップ状の巣を作ります。



さえずるオオヨシキリ



↑手賀沼周辺でみつけた巣。卵は5個あり、巣材には葉や茎の他にガマの穂やビニールヒモも使われていました。